

四季の移ろいを感じ楽しむ

# 七十二候

1年を24等分した二十四節気(立春、春分など)を、それぞれ3つの「候」に区切った節目を七十二候といいますが、移ろう季節を愛でる日本人の豊かな感性を象徴しています。

雨水 末候

## 草木萌動

そろもくめばえいずる

2月28日～3月4日頃

待ちわびた春の訪れ  
次々と顔を出す生命の兆し



料理 蛤のお吸い物



きざし 木の芽起こし



野菜 菜の花



行事 ひな祭

雪から雨に変わり、雪解け水が大地を潤す頃。昔から雨は農耕を始める目安でもありました。ぬるい雨水が草木を目覚めさせ、芽生えの兆しが見えてくる草木萌えの季節です。「萌え」とは草木が芽を出すこと。土の中で春を待ちわびていた種が芽吹き、地上に次々と姿を現します。生命が動き出し大地が色づく、そんな光景に春の訪れを実感できるでしょう。  
この時期に降る雨を「木の芽起こし」と呼び、つぼみがふくらむためには欠かせない恵みの雨です。  
3月3日はひな祭。女の子の健康と健やかな成長を願います。花々が開花し草木が伸びゆく、生命の息吹を感じられるこの季節にふさわしいお祭りですね。

### 開運ポイント

春が旬の蛤。対の殻以外は合わないため、夫婦円満や良縁をもたらすといわれます。お吸い物や酒蒸して、家族の絆や新たな縁を願いましょう。

## 神宮館 SELECT

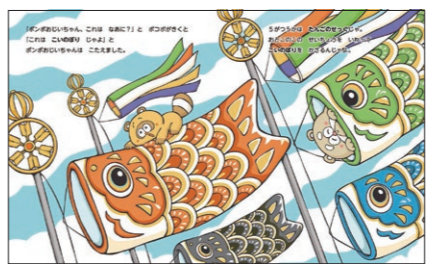


ポンポとポコポ 春のぎょうじ

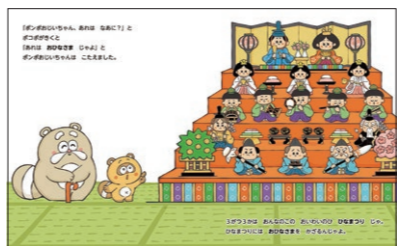
作:かなざわまこと 定価:1,430円

行事を楽しく覚える♪贈り物にも!

今年2月、こよみの神宮館が待望の行事絵本を出版します。本作は、ものしりおじいさんのポンポと、無邪気なポコポの2匹が春夏秋冬の行事を伝えるシリーズ絵本。人気のイラストレーター!かなざわまこととが手掛けます。  
第1弾『ポンポとポコポ 春のぎょうじ』は、ひなまつり、お花見、八十八夜、端午の節句などを掲載。行事に関連する食事、物なども紹介します。



▲5月 端午の節句



▲3月 ひなまつり

作:かなざわまこと

新潟県出身、埼玉県在住。オリジナルキャラクター「おひげのポン」で人気を集める。2018年～NHK「きょうの料理」オープニングアニメーションのイラストとロゴデザインを担当。総合複合施設「マークイズ福岡ももち」AI コンシェルジュキャラクター制作など。

### 応募方法

はがき 「お名前」「郵便番号」「住所」「電話番号」「生年月日」「クイズの答え」「ご意見・ご感想」を必ず明記ください。

〒110-0015 東京都台東区東上野1-1-4 株式会社神宮館 「ももとせクイズ」係

インターネット <https://jinguukan.co.jp/momotose-present/> 右のQRコードを読み込み、応募フォームにアクセスしてください。



応募締切 2021年3月末日

※当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

### 今回のプレゼント

2021年大開運 白金水琴鈴 3名様

2021年・六白金星の年にちなんだ、美しい音色の神宮館オリジナル鈴。



※前回の答え 「おのころ島」

## ももとせクイズ

須佐之男命を御祭神とする、日御碕神社にある宮の名前は?

MOMOTOSE DAYORI

# ももとせ便り

春号

令和3年辛丑

JINGUKAN

No.50

### 特集

神話伝承シリーズ ②

日が沈む聖地 出雲

### 東ね熨斗文様

慶事のお祝いを贈る際に添える熨斗(のし)。そんなおめでたい熨斗を帯状に何本も束ねた「東ね熨斗」は古典柄の代表格で、縁起が良いとされています。  
さまざまな絵柄がきらびやかにたなびく様子はまるで祝福の喝采が降り注ぐかのよう。幸せがどこまでも長く続きますように...おめでたい出来事を通じてつながる人々の願いやきずなが感じられ、見る人を晴れやかな気持ちに導きます。

ももとせ便り

No.50

発行/神宮館

東京都台東区東上野1-1-4

TEL 03-3831-1638

<https://jinguukan.co.jp>

発行人/木村通子

日が沈む聖地

# 出雲

島根県東部に位置する出雲市。山陰地方では松江市・鳥取市に次ぐ3番目の人口を抱える。縁結びの神様を祀る出雲大社をはじめ「神話の国」として全国に知られている。街の中心は出雲市駅周辺となるが、観光客が賑わうのは出雲大社のある大社エリア。移動を考えた場合は車で訪れるのが便利だが、松江と出雲大社を約1時間で結ぶ山陰唯一のローカル私鉄「一畑電車」でのんびり電車旅も楽しめる。



出雲日御碕灯台  
日御碕神社  
出雲大社  
稲佐の浜  
表参道「神門通り」  
須佐神社

同じデザインはなく、動物や植物などを色鮮やかに表現している裏股（かえるまた）の彫刻と合わせて、きらびやかな装飾が特徴の桃山時

出雲日御碕灯台

表参道「神門通り」

日御碕神社

## 日御碕神社と須佐神社

「日の出る所伊勢国五十鈴川の川上に伊勢大神宮を鎮め祀り日の本の昼を守り、出雲国日御碕清江の浜に日御宮を建て日御碕大神宮と称して日の本の夜を護らん」と、古くから夕日の名所として知られる出雲市日御碕にある日御碕（ひのみさき）神社は、天照大



▲日御碕神社遠景

代の面影を残している。ここ出雲には神話にまつわる場所が数多くあるが、日御碕神社から車で45分ほど南に下った地にある須佐神社にも訪れてみた。須佐之男命を御祭神とし、須佐之男命と櫛名田比売の子孫と伝えられる須佐家が代々仕えている。須佐之男命の質実剛健さが表現されてい

御神を御祭神とする「日沉宮（ひしずみのみや）」と須佐之男命を御祭神とする「神の宮」からなる。朱色の社殿は一際目立ち、夕景は朱色がさらに赤く輝いて、神々しさが増す。この社殿を建てた当時の人々の美的感覚の素晴らしさを実感できるだろう。



▲神の宮

日御碕神社の見所は、日沉宮の妻飾りだ。正面から右へ回り込んだ高台から見る事ができるのだが、中央に太陽、右に月、左に星の形をした鮮やかな彫刻がある。それぞれ天照大御神、月読命（つくよみのみこと）、須佐之男命の三姉弟を表している。ひとつと



▲妻飾り



▲裏股の彫刻

るのか、朱色に彩られた日御碕神社とはがらりと雰囲気が変わる。本殿後ろにある樹齢1300年の大杉が凜とそびえ立ち、神聖な空気に包まれていた。出雲には神話の主人公の一人でもある須佐之男命にゆかりがある場所が多い。また別の物語を知るために再び訪れようと心に誓い、出雲を後にした。



▲日沉宮



▲須佐神社

- DATA
- 日御碕神社（ひのみさきじんじや）  
出雲市大社町日御碕455
  - 須佐神社（すさじんじや）  
出雲市佐田町須佐730

## 出雲 おすすめスポット



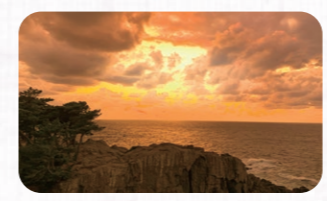
稲佐の浜

国護りの話し合いの地とされ、現在も旧暦の10月10日に「神迎神事」が執り行われ、全国八百万の神々を迎えている。



出雲日御碕灯台

石積みの灯台としては日本一の高さを誇り、日本海を一望できる。夕暮れ時の景色もまた格別で、天気が良ければ水平線に溶けるように落ちてゆく太陽が見られる。



■ 出雲ぜんざい



■ 出雲そば

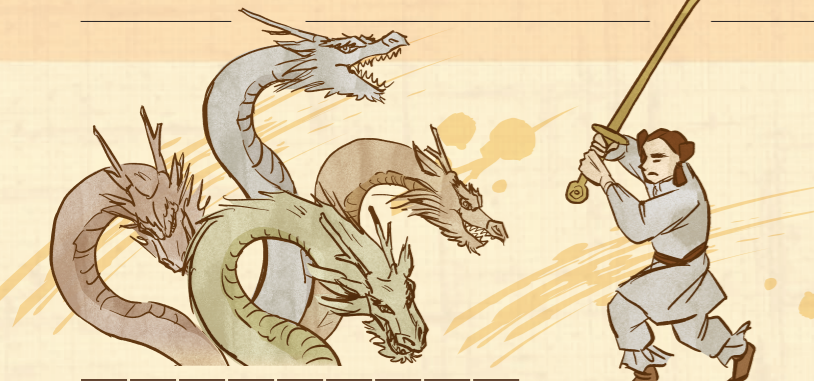


■ 出雲かみしお



■ 海老せんべい

出雲大社の大鳥居へと続く松並木の参道には、名物の出雲そばや出雲ぜんざいはもちろん、縁結びにちなんだお土産、古民家を改装したカフェなど、思わず立ち寄りたくなるお店がたくさん。



## ヤマタノオロチ伝説とは

天照大御神（あまてらすおおみかみ）との不和により、高天原（たかまがはら）を追放された須佐之男命（すさのおのみこと）は、出雲の国に降り立ち、泣いている老夫婦と娘である櫛名田比売（くしなだひめ）と出会う。ヤマタノオロチが毎年娘たちを食らってしまい、最後に残った娘も食われることを嘆いていたのだ。そこで須佐之男命は、ヤマタノオロチに樽に入った酒を飲ませて酔わせ、眠っているところを退治した。倒れたヤマタノオロチの尾を切ると見事な大刀が出てくるが、それが現在でも今上天皇が持つ三種の神器の一つ「天叢雲剣（あめのむらくものつるぎ）」だ。

## 今回の旅で 購入したお土産



神様だるま「須佐之男命」



最中「雲太」  
出雲大社境内から心御柱が出土したのを記念して謹製された粒餡入りの最中。